

和白干潟を守る会 2012年度活動報告

和白干潟を守る会事務局

2013/2/23

2012年度のまとめ

1988年に「和白干潟を守る会」を発足して、今年4月で25年が経ちます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、自然観察会やクリーン作戦などさまざまな活動をたえまなく続けてきました。

2012年7月には「ラムサール条約締約国会議」がルーマニアで開かれ、日本では九州の荒尾干潟など9か所が新たに登録され、国内のラムサール条約登録湿地が46カ所になりました。しかし「和白干潟」はまだ候補地のままです。8月には福岡市長に「和白干潟のラムサール条約登録要望書」を提出しました。11月の「第24回和白干潟まつり」ではラムサール宣言」を採択し、環境大臣や福岡市長、県知事に届けました。また「和白干潟のラムサール条約登録」を求める署名活動を始めました。干潟まつりの日にミヤコドリが11羽も訪れ、まつりを祝福しているかのようでした。

活動への企業や学校の支援が増え、「クリーン作戦」への参加が大きく増えました。企業はクリック募金を企画したり、多彩に協力していただきました。和白干潟を守る会は社会的にも認知されてきていることを感じ、ありがたく思います。また若者が運営に参加するようになりました。

今年は25周年になりますので、2013年1月発行の和白干潟通信105号を25周年記念として表紙をカラー印刷にしました。2012年度もすばらしい活動ができたと思います。

今年は4月にJAWAN日本湿地ネットワークの総会とシンポジウムが和白で開催予定です。講師には鹿児島大学教授の佐藤正典さんが決まっています。世界の湿地や干潟の保全が進むように願っています。今年度も和白干潟を守る活動に、皆さまのご協力をお願いします。和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となるように希望を持ってがんばりましょう！自然豊かな和白干潟を、みんなの努力で未来の人たちに渡したいと思います。引き続き若い人たちの活動への参加を心から待っています！

和白干潟を守る会 代表 山本廣子

活動方針 1. 和白干潟環境教育プログラムによる「自然観察会」「クリーン作戦と自然観察」、「和白干潟まつり」を通して、多くの市民、特に若い世代や子どもたちに自然の大切さを実感してもらい、自然保護の機運を高める。

1. 和白干潟自然観察会

2012年4月、観察会グループミーティングを行い、5月に観察会の案内状を保育園、小中学校、高校、公民館等へ送付した。観察会の依頼を受けると、事前に下見・打合せを行い、観察会に来る学校等でパンフレットやビデオを使った事前学習をしてもらった後、観察会を実施した。

2012年度中（1月～12月）の和白干潟自然観察会は、年間17回で、延べ1,157名の参加があった。学校関係からの依頼では、保育園4回（香椎保育所、ちどり保育園、玄海風の子保育園）194名、小学校5回（和白小学校、西戸崎小学校、香椎東小学校）556名、中学校1回（筑陽学園中学）71名、高校2回（柏陵高校、福岡魁誠高校）87名、合計12回、908名あった。その他に、「佐賀環境フォーラム」、「MS&ADグループ」、「ふくおか森の学校」、「SAVE JAPAN プロジェクト」などの団体への和白干潟の観察会が5回、延べ249名あった。また、和白干潟保全のつどいとして「リンデンホール小学校和白干潟観察会」に協力したほか、「和白干潟の生きものやハマボウを見る会」を7月に開催し、53名の参加があった。

学校関係からの依頼は、新たに香椎東小学校からの申込みがあった。更に、企業から観察会とクリーン作戦を兼ねた申込みなどもあった。

ガイドの固定化と高齢化の問題に対しては、福岡市が推進するボランティアインターンシップ制度を活用し、一般からの参加を募ったが、参加者はなかった。しかし、会員の中からカメラ係を引き受ける者が現れ、若干の進展が見られた。ガイド要員の確保については、会の中での育成システムを確立するほか、引き続き、「あすみん」との連携を継続して行きたい。

2. 和白干潟の自然観察ガイド講習会

和白干潟の自然の特性を良く理解して観察会の案内が出来るように、6月3日に第15期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」を開催し、16名が参加した。

講師：野村郁子氏（福岡植物友の会副会長）

ガイド講習会への参加者が自然観察ガイドとして長年従事された方に固定化しており、本来の目的であるガイドスキルの向上については、ほぼ水準に達していると考えられ、新たなガイド養成が望まれている。

3. 和白干潟クリーン作戦と自然観察（毎月第4土曜日）

毎月第4土曜日午後3時から5時まで、海の広場から唐原川河口、和白4丁目の範囲をその時の状況に合わせて清掃し、同時に自然観察、水質や、砂質調査実施した。クリーン作戦は、年間12回、延べ646名が参加し、2,021袋のゴミを回収した。定例のクリーン作戦の他に、6月には、環境省福岡事務所の呼びかけで臨時のクリーン作戦を実施した他、自然観察会、和白干潟の生きものやハマボウを見る会、干潟まつりなどに延べ641名が参加し、652袋を回収した。全体では延べ1,287名が参加し、2,673袋のゴミを回収した。この内、守る会人数は、個人、会場整備、まつり、ハマボウ、合わせて延べ207名だった。粗大ゴミは、自転車、タイヤ、浮き、家具類、流木など、様々な物があった。

年度	活動項目	回数	延べ参加人数(人)	ゴミの量(袋)
2011	クリーン作戦	12	421	666
	その他	19	281	302
	合計	31	702	968
2012	クリーン作戦	12	646	2,021
	その他	10	641	652
	合計	22	1,287	2,673
増加割合		%	183%	276%

総括すると、企業・団体からの参加が多かったことで、参加総人数は昨年の約1.8倍、ゴミ回収量は約2.8倍となっている。（上表参照）

- ・4月28日（土）のクリーン作戦は「干潟を守る日」と「春のビーチクリーンアップ」に参加。
- ・5月27日（日）は「ラブアースクリーンアップ」に参加。
- ・7月22日（日）の「和白干潟の生きものとハマボウを見る会」では参加者で牧の鼻付近を清掃。
- ・9月22日（土）のクリーン作戦は「国際ビーチクリーンアップ」に参加しゴミデータ調査を実施。

4. 第24回和白干潟まつり

1月25日（日）晴天に恵まれ実施。和白干潟まつりは多くの人に和白干潟の自然を直接見て、体験して干潟の重要性と守っていくことの大切さを認識してもらう目的で開催している。グリーンコープ生協ふくおか福岡東支部と共催し約400名の参加があった。今年は協賛団体が1社減ったこと、参加者が昨年より減少したことは残念だった。出店者は18店で減少傾向にあるが、新規参加もあった。今回出店者の基準を明確化した。観察会主体のイベントは好評だが、より多くの参加者を募るための改善が必要である。パネル展示、写真展示も数を増やし、見やすくなり、ステージの企画では新

しい出し物も増え、干潟のいきものの絵を描いたリサイクルイスは観客に大好評だった。

今年は守る会はそろいのブルズンを作成、着用し「ラムサール登録を目指す署名」活動も会場で行ったが、署名の場の設定に工夫が足りなかった。今年もラムサール宣言を採択し、環境省、福岡市、福岡県、環境省福岡事務所に送付した。

出店者との反省会では、干潟まつりをもっと知ってもらおう工夫をという声が強かった。今年はアオサがたくさん堆積し、除去しても悪臭が残っており、干潟の環境保全の大切さを知ってもらうことにはなったが、楽しさに影響したことは否めない。

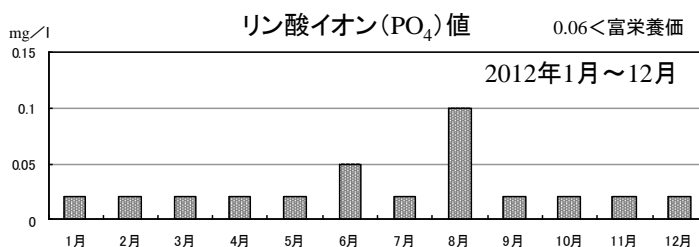
活動方針 2. 和白干潟の大切さと保全の必要性を広く社会に訴えるため、和白干潟を取り巻く自然環境の変化について、干潟及びその周辺の生物の調査、漂着ゴミ調査などの活動を継続し、調査結果を公表する。

5. 調査

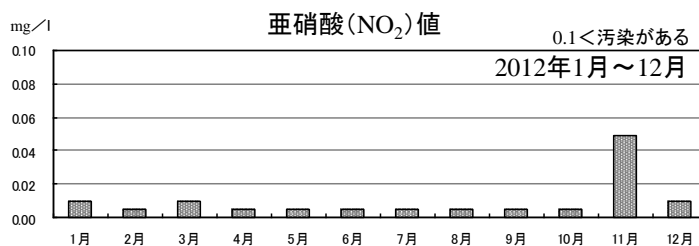
調査項目としては毎月実施する水質調査及び砂質調査、9月の国際ビーチクリーンアップ参加でのゴミ内容調査のほか、水鳥調査などを実施した。

(1) 水質調査 (毎月1回実施)

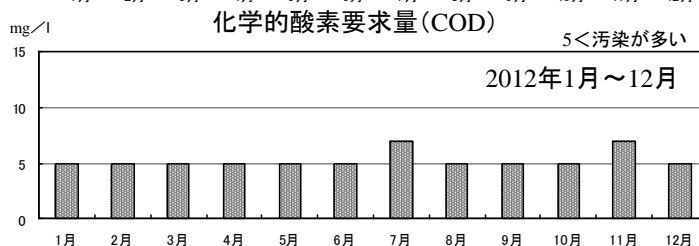
①リン酸イオン値 (PO₄) が 0.06 を超えると富栄養化状態を表す。2012 年度は6月と8月が高かったものの、その他の月は 0.02 以下であった。



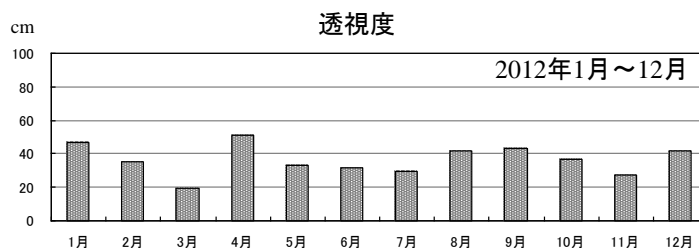
②亜硝酸値 (NO₂) は海水の汚染度を表す。2012 年度の亜硝酸値は、11 月が 0.05 と高かったがその月以外は 0.02 を越えることがなかった。



③化学的酸素要求量 (COD) は毎年夏場には悪化する傾向にある。2012 年度は7月と11月やや悪化し、5を上回った。



④透視度については、年間平均で 30 cm 位であり、例年の和白干潟の値を示している。



(2) ゴミ内容調査

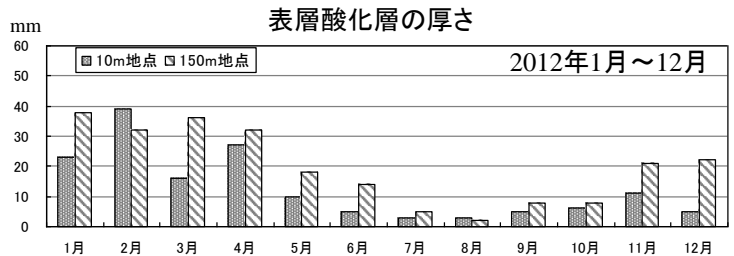
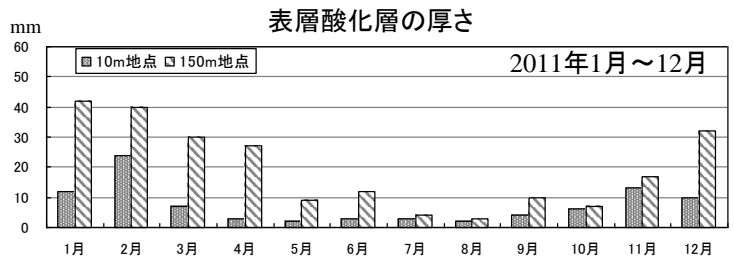
9月の国際ビーチクリーンアップにて、干潟に漂着したゴミを回収して内容調査を実施した結果、32種類のゴミが回収された。例年のように、食品の包装容器やプラスチック袋などが多かったが、今年は台風の通過直後だったこともあり、ペットボトルも多かった。

(3) 砂質調査

和白干潟・海の広場前10m地点と150m地点の沖合地点の表層酸化層の厚さと還元層の黒色度を測るものである。表層酸化層が厚いほど干潟が健康な状態にあることを示す。

右のグラフは、2011年度と2012年度の表層酸化層測定結果である。夏場には数mmまで下がり、秋から冬にかけて厚くなる傾向にある。

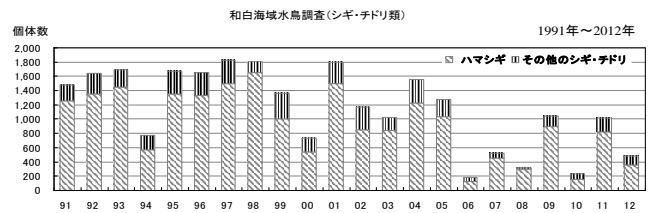
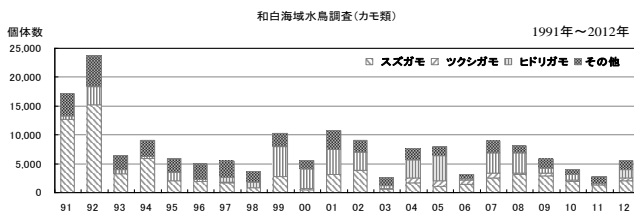
沖合いの方が厚い傾向にあるが、2012年の秋にアオサが漂着して浜辺に堆積したことで、2012年の11月、12月は、浜辺側が極端にうすくなっている。



(4) 鳥類調査

鳥類調査では以下の調査に協力した。

- ① 1月 和白海域水鳥調査 (日本野鳥の会福岡・IWRB 国際水禽湿地調査局) 2012年1月8日に実施。和白海域の水鳥の越冬数 (和白海域水鳥調査) は、カモ類は昨年の2735羽よりは増加したが、最多の1992年の23,719羽と比べて約4分の1の5,511羽に減少。シギ・チドリ類は昨年の1013羽よりは減少し、1990年代の約1,600羽から3分の1の479羽に減少した。



- ② 環境省モニタリングサイト1000シギ・チドリ調査 (環境省・NPO法人バードリサーチ)

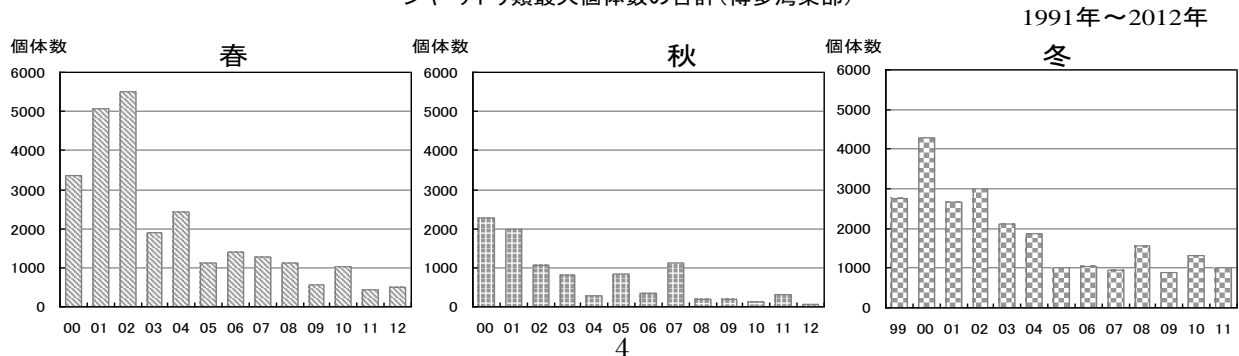
冬期：2010年12月、2011年1～2月今津と博多湾東部各3回実施

春期：2011年4月～5月今津と博多湾東部各3回実施

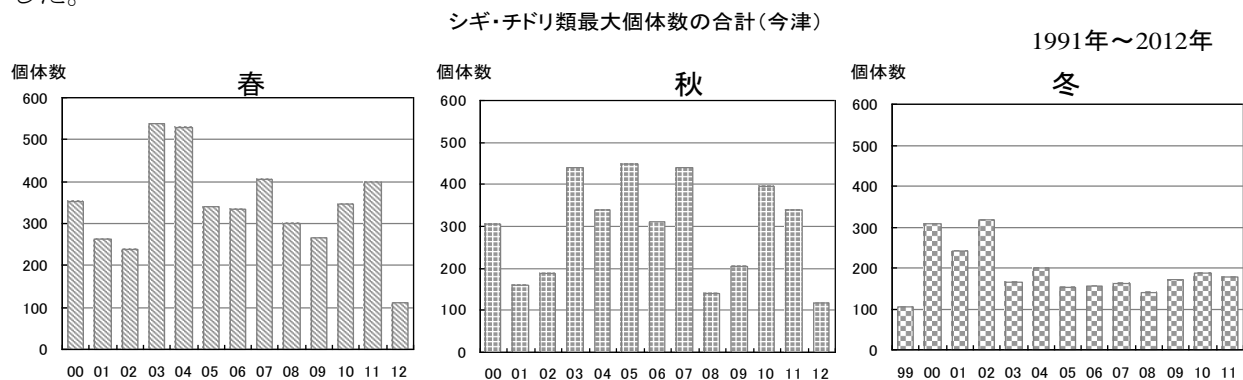
秋期：2011年8月～9月今津と博多湾東部各3回実施

博多湾東部海域のシギ・チドリ類最大数合計は、2011年度冬期は2000年の4,300羽から1012羽に減少し (昨年1326羽)、2012年春期は2002年の5,509羽から496羽に減少 (昨年465羽)。2012年秋期は2000年の2,271羽から72羽に減少した (昨年302羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大14羽 (昨年16羽)、ツクシガモ492羽 (昨年356羽)、ズグロカモメ0羽 (昨年1羽) をカウントした。

シギ・チドリ類最大個体数の合計 (博多湾東部)



今津のシギ・チドリ類最大数合計は、2011年度冬期は2002年の319羽から177羽に減少し(昨年188羽)、2012年春期は2003年の538羽から110羽に減少(昨年399羽)。2012年秋期は2005年の450羽から118羽へ減少(昨年339羽)。希少種では、冬期にクロツラヘラサギは最大27羽(昨年37羽)、ツクシガモ9羽(昨年61羽)、ズグロカモメ20羽(昨年15羽)をカウントした。



この20年ほどで博多湾東部の鳥類は大きく減少した。今津はやや減少か横ばい状態である。2012年の鳥類調査参加者は、毎回5名から10名、延べ74名が参加。また一斉調査以外にも個人で調査を行った。

鳥類調査担当者が高齢化などで減少している。調査員の確保を急ぎたい。

※ミヤコドリは2012年10/9に2羽観察(初認)、10/12に4羽観察、10/24に7羽、10/25に8羽、11/25に11羽を観察した。(2011年は最大7羽観察) 2012年は和白干潟にいたことが多かった。

活動方針 3. 貴重な鳥類をはじめとする多様な生物の宝庫としての和白干潟を、「ラムサール条約登録地」とするための取り組みを強化する。また、和白干潟の環境保全のために「クリーン作戦」に取り組むとともに、博多湾の自然を壊す人工島事業の凍結・縮小を含めた和白干潟保全策を行政や議会、市民に提案し、広報を強化する。和白干潟を守る会は、今ある自然を壊さないこと、壊れたところは元の自然に戻すことを目指す。

6. ラムサール条約登録を目指して

- ①8月に高島市長の就任2年目にあたり、ラムサール条約登録実現を求める要望書を提出、記者会見を行い、3新聞社が記事を掲載した。市長からは未だ要件を充たしていないとの回答だった。
- ②福岡市が「生物多様性ふくおか戦略」を策定したが、和白干潟の保全、将来的なラムサール条約登録の計画もないことから、問題点が多いとして、市長への要望書に記載し、見直しを求めた。
- ③ラムサール条約登録を目指して、署名用紙5000部を作成、秋から福岡市長、環境大臣あての署名活動を開始した。和白干潟まつり、クリーン作戦、観察会、通信への同封、その他これまでかかわったことのある団体、個人等に署名用紙を発送し、協力を求めた。第1次集約を2013年12月としている。
- ④第24回和白干潟まつりでラムサール宣言を出し、国、県、市、環境省九州事務所に送付した。
- ⑤署名活動の気運を盛り上げるため和白干潟を守る会のブルゾンを作成、グッズとして缶バッジ、ストラップを作成した。
- ⑥2012年7月にルーマニアで開催されたラムサール条約締約国会議で、九州の干潟として初めて熊本県荒尾干潟が登録された。その取り組みについて市長への要望書、署名文などに生かした。

7. 和白干潟の環境保全を目指して

(1) クリーン作戦の取り組み

昨年に引き続きキヤノンの社会貢献キャンペーンの一環としての新聞広告、キヤノンクリック募金の対象に選ばれるなどで和白干潟の知名度が上がり、企業、高校生の団体参加が増えた。西日本新聞社、トヨタグループの「AQUA SOCIAL FES 2012」など新たな企業や、地域住民有志の方の継続的な参加も増えた。

今年はアオサが大量発生し、腐ってヘドロ化し、貝類、植物に大きな影響があった。企業、高校生が参加した時のクリーン作戦では若い方々や高校生などの力が大いに役立った。

また、損保ジャパン、キヤノン、MS&AD など独自の日程でクリーン作戦と組み合わせて自然観察会などを企画されるようになった。

(2) 人工島事業、福岡市の施策等に対する取り組み

① 4月には、荒木市議を講師に人工島事業と財政問題など「人工島問題学習会」を行った。

② 「生物多様性ふくおか戦略」策定にあたり、和白干潟の保全についての記載がないこと、ラムサール条約登録についての計画もないことなど問題点について調べ、定例会議で報告し、市長への要望書で見直しを求めた。

(3) 福岡市との環境関係の協議、連携について

① 「エコパークゾーン水域利用連絡会議」では、今年度は水上パトロールへの参加は日程上できなかったが、会議に出席し、アサリの業者採取禁止、ウェイクボードの走行規制などについて意見交換した。

② 「和白干潟保全のつどい」では毎月 1 回の定例会に数人が参加、活動報告や意見交換、つどいとしての「バードウォッチングイン和白干潟」「和白干潟の生き物やハマボウを見る会」「アオサのお掃除大作戦 4 回」などのイベントを共催した。大宰府の私立小学校の和白干潟観察会にも協力した。和白干潟まつりのパネル展示に参加した。「アオサのお掃除大作戦」については実施時期、かかわり方などについて見直しを求めている。「和白干潟の生態系の見える化」について意見交換している。

③ 3月福岡市NPOボランティアセンター主催の「ふくおかボランティアまつり」に参加。実行委員も担った。さまざまな市民団体と交流でき、干潟まつりに出店してくれた団体もあった。ボランティアインターンシップ受け入れについては2名の申し込みがあった。

8. 広報の強化について

(1) 和白通信・リーフレット類

① 和白通信は1・4・7・10月に計4回各5000部発行した。101号は100号突破記念として1面と8面をカラー印刷にした。干潟通信は(公財)イオン環境財団の助成を受けてロータリー印刷(株)で作成した。配布先は、会員、マスコミ、行政関係、和白干潟の地域家庭、クリーン作戦参加者など。発送作業はみんなで行っている。発送、配布についてのマニュアルを作成、担当責任者を決めて取り組むことになったため、効率的にできるようになった。配布ボランティアの高齢化もあり、配り手の確保が課題となってきた。

和白干潟通信、リーフレット類は東区内公民館、臨海リサイクルプラザ、郵便局、パタゴニア福岡店、ギャラリー「風」、亀の井ホテル、喫茶「ほっと」、藍の家、薬局、画材店などにも置いてもらっている。

②リーフレット類では、「和白干潟を守る会リーフレット（入会案内）」を表紙のきり絵など改訂、10000部増刷した。

③「クリーン作戦と自然観察」のお知らせポスターは、東区役所、東市民センター、コミセンわじろ、公民館、郵便局、ホームセンターほか周辺大学（福岡工業大学、九州産業大学、福岡女子大学）にも掲示を依頼している。

(2) 和白干潟を守る会ホームページ

4月より5名のホームページ担当者を決め、定例会後にHP編集会議を開いて協議し、分担制とした。活動報告をブログに掲載、年間を通じ、守る会の行事予定や和白干潟の生き物などに関する情報を随時、写真も豊富に更新し発信している。新たな参加者、企業もホームページより情報収集されている傾向にあり、守る会の活動にホームページの充実は不可欠である。次年度はさらに読者にわかりやすいページをつくる大幅な見直しが課題となってきた。

(3) イオン「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加

「幸せの黄色いレシートキャンペーン」に参加して5年目となった。イオングループが全国的に実施しているキャンペーンで、環境や福祉などのボランティア団体を支援するため毎月11日に買い物したときの黄色いレシートを団体のボックスに投ずると、その1%相当額の商品がイオンから団体に寄贈されるという仕組みである。今年は、1月から12月まで、イオン香椎浜店とホームワイド和白店で黄色いレシートの投函呼びかけを実施した。毎月5～6人が参加しており、延べ55人が参加した。呼びかけの時、たすきや守る会のラムサールキャンペンブルズンを着用し、干潟通信とリーフレット、和白干潟まつりのチラシ等を渡している。4月には2011年度分の贈呈式があり、ギフト券をいただいた。

9. 講演活動

- ①5月22日佐賀大学の「佐賀環境フォーラム」において、山本代表が「未来に残そう！和白干潟」と題して講演を行った。地元の干潟「大受揚」を見学し、そのすばらしさ、重要性を伝えた。講演の後、6月22日には環境フォーラム受講者22名の和白干潟観察会が実施され、実感を伴って干潟を守ることの大切さを知っていたくことができた。
- ②10月18日福岡市城南区別府公民館主催の、高齢者対象のさわやか教室において山本代表が「未来に残そう和白干潟」と題して講演を行った。

10. 情報の発信：新聞や雑誌、他団体の会報等に活動予定や鳥情報、和白干潟の紹介を発信

- ・(財)日本自然保護協会(NACS-J)に年間スケジュール表送付、「自然保護」誌に「和白干潟のクリーン作戦と自然観察」、「ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の掲載を依頼した。
- ・自然関係5誌に、「和白干潟自然観察ガイド講習会」、「和白干潟まつり」の案内掲載を依頼した。
- ・くすだひろこきりえ展「和白干潟の息吹」(レストラン花もも5/7～5/31)を開催し、パンフレットや通信を配布した。きりえ展は新聞社の取材もあり、記事として掲載された。
- ・西日本新聞社企画「福岡のココがよかね！」に和白干潟の写真を応募し、掲載された。
- ・福岡市東区役所が募集した地元のよさをアピールする写真展に和白干潟の写真を応募、掲載された。

11. 取材協力：新聞社、テレビ局、雑誌などからの取材に協力

- ・1月の和白小学校の観察会には北海道新聞からの取材もあり、大きく取り上げられた。
- ・朝日新聞社のクリーン作戦取材に協力した。

- ・コミセンわじろからのクリーン作戦取材に協力した。
- ・森林文化協会のシギチドリ調査同行取材に協力した。「にほんの里100選」後のルポとして掲載された。
- ・三井住友銀行のホームページ掲載に協力した。

1.2. 対外団体との交流活動、協力・参加活動

- (1) 和白海岸定例探鳥会 毎月1回日本野鳥の会福岡に協力。
- (2) JAWAN・JEAN
 - ・JAWAN「干潟を守る日2012」参加：4月のクリーン作戦と併せて
 - ・JAWAN 総会：昨年に続き、山本代表が運営委員に。福井県敦賀市で開かれたシンポジウム「日本の湿地を守ろう！ラムサール条約 COP11 へ向けて」で、和白干潟の現状報告（福井在住の片岡佐代子会員）。2012年度開催地が和白干潟と決まった。
 - ・JEAN「国際ビーチクリーンアップ（春・秋）」に参加
- (3) グリーンコープ
 - ・第24回和白干潟まつりの共催
 - ・遺伝子組み換えナタネ抜き取り隊に4名参加
- (4) 「山・川・海の流域会議」

和白干潟の集水域の生態系を守るため、唐原川の流域、立花山などの自然保護、環境保全に取り組む6団体と連携し、「山・川・海の流域会議」を8月に発足させた。2か月に1回の定例会のほか、10月にはイベントとして和白干潟から三日月山まで歩いて自然観察する「海・山・川の自然を学ぼう」を実施した。交流が始まり、クリーン作戦や和白干潟まつりへの参加もあっている。
- (5) その他の団体との交流と協力
 - ・東日本大震災で壊滅的被害を受けた「蒲生を守る会」と交流を継続。報告書をいただいたり、干潟まつりで蒲生干潟の現在の状況についてのパネル展示をした。
 - ・北九州市小倉南区社会福祉協議会ボランティア24名の視察。
 - ・天草のハマボウを守る活動の桂さんが訪問され、会員加入。
 - ・「第3回有明海再生フォーラム」において、守る会事務局長が司会を担当し、守る会資料の配布、シンポジウムの講師のNPO法人「森は海の恋人」畠山理事長などに和白干潟を守る会の活動紹介をした。
 - ・福岡東部法律事務所丸山弁護士の和白干潟保全活動の取材に協力。

1.3. 「和白干潟を守る会」の運営に関して

- (1) 定例会議・総会（毎月第4土曜日）

原則第4土曜日に、守る会事務所で「定例会議」を12回開催。そのうち2月は「総会」として開催した。出席者は各回13～20名。平均15名出席し、総会で活動方針を決めるほか、会の活動に関する報告、予定を共有し、重要な事項は定例会議で検討し、決定した。又、事務局会議を必要に応じて開催した。
- (2) 助成

イオン環境財団から助成金をいただいた。

(3) 寄付

- ①イオン九州（株）から「幸せの黄色いレシートキャンペーン」によりギフト券を寄付いただいた。
- ②キャノンマーケティングJから「ふるさとプロジェクト活動支援金を2回（寄付つきドリンク自販機を通じた寄付1回を含む）をいただいた。
- ③あいおいニッセイ同和損害保険株式会社から Web 約款寄付を2回いただいた。
- ④西日本新聞社から、トヨタグループとの AQUA SOCIAL FES 2012 の取り組みで寄付をいただいた。
- ⑤SAVE JAPAN プロジェクトで福岡 NPO センター（損保ジャパン）から寄付をいただいた。
- ⑥会員や一般市民、観察会、干潟まつり、望年会オークション等でカンパを受けた。

(4) 2012年度の新規会員

- ・個人 17名
- ・団体 1団体

(5) 2012年度末の会員数(新規会員を含む)

今年度は長期会費未納者を整理したため、会員数は前年度より減っている。

- ・個人会員： 253名
- ・団体会員： 10団体

14. パンフレット類の在庫

2012年度末のパンフレット類の在庫数は、概略次の通り。

・「和白干潟を守る会」リーフレット	8,900	
・和白干潟の自然案内(和文)	3,221	
・和白干潟の自然案内(英文)	528	
・環境教育シリーズⅠ（環境教育プログラム）	8,179	
・環境教育シリーズⅡ（水鳥、底生動物、植物図鑑）（和文）	5,100	
・環境教育シリーズⅡ(英文)	461	
・環境教育シリーズⅡ(韓文)	79	
・和白干潟観察マップ・年間スケジュール表	191	※毎年印刷
・「和白干潟を守る会」封筒	600	※今年印刷予定
・「ラムサール条約と和白干潟」	303	
・「未来につなごう和白干潟～和白干潟を守る会20年のあゆみ」	10	※今年増刷予定 (200部)

15. その他

- ・海ノ中道海浜公園委託の鳥類調査に協力（毎月1回）
- ・望年会参加者 15名（12/25）・大掃除参加者13名（12/27）